

環境法政策学会 第27回学術大会 分科会 プログラム

2023年5月24日

開催日時 2023年6月17日(土) 14時00分開始 16時30分終了(予定)

Zoom を使用しての[オンライン開催](#)です。

Zoom の URL 等は6月上旬に周知します。

理事会の承認を得て「16時終了」から「16時半終了」に変更しました。

第1分科会 国内環境法 [座長：川合敏樹会員(国学院大学)] 回線①を利用

- I プラスチック資源循環法1年を振り返り、今後のプラスチック政策への示唆
(報告者：織朱實(上智大学) / コメントーター：筑紫圭一(上智大学))
- II タイヤ摩耗粉塵のマイクロプラスチック化に対する予防的措置に関する一考察
— 有効な科学的情報の不存在と国家機関の役割 —
(中山敬太(九州大学) / 石巻実穂(早稲田大学))
- III 環境NPOの運営改革とデジタル化
— エコライフDAY事業のデジタル化を例として —
(斉藤照夫(NPO法人 川口市市民環境会議) / 田浦健朗(気候ネットワーク))
- IV 地域資源保全行動に係る住民運動の事例比較
(槻宅涼子(上智大学大学院) / 樋渡俊一(弁護士))
- V 廃炉プロセスにおける市民参画
(清水知佳(駿河台大学) / 川合敏樹(国学院大学))

第2分科会 外国・国際環境法 [座長：堀口健夫会員(上智大学)] 回線②を利用

- I モンゴルにおける鉱物資源開発と環境問題の現状について
(スフバートル・モロム(名古屋大学大学院) / 蓑輪靖博(福岡大学))
- II 中国における野生動物利用の行方
— 「野生動物保護法」の改正を中心に —
(何劼(浙江師範大学) / 櫻井次郎(神戸市外国語大学))
- III 中国の市街地の土壤汚染修復における原因者負担原則の適用
(莫也(大阪大学大学院) / 奥田進一(拓殖大学))
- IV 宇宙活動に関する長期的持続可能性ガイドラインの規範的位置づけ
— 国連宇宙空間平和利用委員会におけるスペースデブリに関する審議の分析
(松田芳和(名古屋大学大学院) / 堀口健夫(上智大学))
- V 持続可能な開発と分配的正義
— 日本の分配的正義の法的状況とその国際法への影響
(石橋可奈美(東京外国語大学) / 遠井朗子(酪農学園大学))

第3分科会 企画セッション「緑の流域治水に関わる法政策の多面的検討」

〔代表者：鈴木詩衣菜（聖学院大学）〕 回線③を利用

本セッションは、持続的な地域づくりや環境保全の観点を兼ね備えた流域治水の社会実装に向けた法制度の在り方について、主に国際法、行政法、環境法、政策学、河川工学の観点から流域治水の先駆的なモデルである琵琶湖の取り組みを参考に、熊本県球磨川における緑の流域治水に焦点をあて、流域治水を促進するうえで、直面する課題とその確実な実施を検討する。

報告者：島谷幸宏（熊本県立大学）、鈴木詩衣菜、釦持麻衣（関東学院大学）、瀧健太郎（滋賀県立大学）、中川太介（熊本県球磨川流域復興局）

第4分科会 企画セッション「諫早湾干拓紛争の現状と法的課題」

〔代表者：樫澤秀木（佐賀大学）〕 回線④を利用

本セッションは、国営諫早湾干拓事業によって設置された潮受堤防の開門をめぐる紛争の現状を整理したうえで、本紛争において浮かび上がった法学的諸課題（不確定状況下での紛争処理のあり方、民事訴訟当事者としての国の訴訟追行のあり方、三権分立をめぐる憲法学的問題など）について検討を行うことを目的とする。

司会者：岡庭幹司（横浜国立大学）

報告者：樫澤秀木、宮澤俊昭（横浜国立大学）、御幸聖樹（同志社大学）、児玉弘（佐賀大学）

第5分科会 企画セッション「オーフス三原則から考える環境基本法改正の方向性」

〔代表者：橘高真佐美（オーフス・ネット事務局長、弁護士）〕 回線⑤を利用

環境基本法は、2023年に制定30周年を迎える。本セッションでは、オーフス条約を日本で実現する市民ネットワーク（オーフス・ネット）がオーフス3原則（情報公開、意思決定参画、司法アクセス）の視点から提案する環境基本法改正の概要を紹介した上で、改正案によりどのような問題を解決できるかという具体例を提示し、環境基本法改正に向けた検討を行う。

報告者：滝口直樹（立教大学）、一原雅子（総合地球環境学研究所）、久島憲晴（弁護士）、佐柄木優（弁護士）

コメンテーター：大塚直（早稲田大学）、浅岡美恵（弁護士）、児矢野マリ（北海道大学）、島村健（神戸大学）